



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行:2008年8月15日  
発行責任者:  
特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守

## 横浜ほうゆう病院 薬剤師に求められるもの ～ 認知症疾患医療センター病院構想に向けて～

横浜ほうゆう病院 薬局長 小山 啓子



認知症専門病院である当院において、入院、外来患者様ともに薬の服用に関しては、多くの方々が、看護師ばかりでなく、施設の介護職員やご家族の介助を必要としている実態があります。したがって、薬剤師は患者様ご本人のための安全性だけではなく、介助者に対しても配慮が行き届いた調剤を行う必要があると強く考えています。その実現のために、問診票や診療情報提供書、看護サマリー、ご家族からの聞き取りにより、必要な情報を収集しています。得られた情報は、患者様のプロフィールとして服薬履歴とともに記録し、処方監査や一包化調剤のほか、錠剤粉碎の必要性を確認するために活用しています。入院患者様の薬に関しては、以前は病棟看護師が行っていた投与日の記載、1回分毎のホッチキス留めを今年からは薬局で行い、1週間分を再度鑑査した後、朝・昼・夕の21ケースにセットし、薬剤師が病棟の薬品棚に納めるようになりました。しかし、認知症患者様への薬の投与は容易ではなく、薬局としてはまだまだ、調剤工夫、採用薬剤の検討を重ね少しでも看護の現場に則した調剤を目指したいと思っています。

現在、医療の現場では、チーム医療の重要性が強く認識され、当院においても具体的な様々な取り組みが行われています。薬剤師は褥そう対策委員会や院内感染防止委員会等に参加して、薬剤の適切な使用方法、副作用情報やコストの面での情報等を提供したり、各種の研修会で得た知識や情報を伝達しています。次の目標は、病棟カンファ

レンスにも参加して、医師、看護師とともに患者様に関する様々な情報を共有し、処方設計に貢献することです。そのためには、薬剤師一同は今まで以上に自己研鑽に励まなければならないでしょう。薬剤師として、その職務の到達目標でもあると思うので実現に向けてともに頑張りましょう。

昨年より、薬局での調剤過誤に対する分析、対策立案の経験や、院内外の医療安全研修等で得た知識を基に、微力ながら医療安全管理者として、各部署のリスクマネージャー、関係する委員会の委員長とともに連携し、医療事故防止に努めています。事故の分析にはなるべく多職種の多人数が関わることで、より正しい方向に導かれると思います。また、問題に対する対策は実現可能なもので、かつ、細部までの具体的な取り決めが必要であると考えます。さらに、取り決めの周知徹底には方法論のみでなく、同部署または同職種の全員がすべてのインシデント・アクシデントを、自らのこととして受け止める環境作りこそが有効ではないでしょうか。事故分析を多人数で行うことは、その一助になると考えます。今年度のリスクマネジメント委員会では、種々の対策実行状況を確認し、評価、修正しています。事故の分析から始まり、対策の評価、修正の繰り返しが必要であると考えます。

最後に、認知症センター病院構想に向けて、薬局長としての任務と責任ばかりではなく、医療安全管理者としての職務も重く受け止め、これまでと同様に皆様のご協力を切に願っております。

# 鵬友会 第5回幹部研修 開催！！

テーマ “ 今回の医療制度改定と医療のゆくえ ” “ 幹部職員に期待すること ”

医療法人社団鵬友会幹部研修会が平成20年7月25日から1泊2日で開催されました。箱根のホテルにおいて46名の出席。まず開催の挨拶に立ったのは、

当法人 児玉喜直理事長

「医療界は大変厳しい時代だ。この難局をいかに乗り切るのがこの研修のテーマである。ぜひ皆さんで活発な意見交換をしていただきたい。」と話され、この幹部研修会の目的を参加者一同改めて確認しました。

湘南泉病院院長としては、本年4月に**日本医療機能評価機構の認定証の交付**を受けた報告があり、今後は10：1看護の維持が大変重要であるという認識を示されました。



[ 児玉喜直理事長 ]



[ 池島 守常務理事 ]

続いて

法人本部 池島守常務理事

より、

2つのテーマによる講演に移りました。まずは今回、「**変わった医療制度と今後の医療制度のゆくえ**」について。診療報酬の改定による今後の方向性として、キーワードは在宅医療。病院を中心として在宅復帰や在宅医療の重要性についての認識を深める機会となりました。

次に「**幹部職員に期待すること**」では、部下の育て方のコツや管理（幹部）職員として期待していることについて、分かりやすく、そして厳しい内容で、出席者はそれぞれ、自分の幹部としての役割を再確認し、また見直す良い時間でした。

新中川病院 福田千文院長

一般病棟と療養病棟をもつ新中川病院は、今後、**高齢者医療に特化した専門の病院**として、そして医療はサービス業という意識を職員全体で共有し、最高のサービスを提供することで勝ち残っていきたいという明確なビジョンを話されました。

横浜ほうゆう病院 小阪憲司院長

昨年7月に認知症専門病院である横浜ほうゆう病院に就任してこの1年で行ってきたこと、病院名をそれまでの“ほうゆう病院”から“横浜ほうゆう病院”へ改名したことや、外来診療を活性化させたことなど、**今後は認知症疾患医療センターとして地域の基幹病院**としての機能を構築すること、病院機能評価の受審を目標として示されました。



[ 福田千文院長 ]



[ 小阪憲司院長 ]

最後に

介護老人保健施設阿久和鳳荘 末盛彰一施設長

**事務長・看護師長と3人で、鵬友会の他施設との交流の場**を設け、そして機能分担や施設間連携について強化していきたいと締めくくりました。

今回の研修は、予定終了時刻を30分ほど延長しました。全体として非常に濃い内容で、約2時間があっという間に過ぎた感があります。ここで学んだことが日々の業務と直接結びつき、個人はもとより、施設や法人全体の成長となるはずです。